

令和3年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

第5学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○語彙に偏りがある。 ○話すことはできるが、丁寧に聞く力に課題がある。 ○引用の際、要点を必要な部分だけ取り入れることが難しく、長文を書き抜いたり、自分の解釈で書き換えたりしてしまう。 ○文章を丁寧に読み解く力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な場面における語彙を増やし、話や文の中で使う。 ○最後まで話を聞き、自分の意見がもてるようにする。 ○要旨を理解しながら、最後まで読む力を付けさせる。 ○要点を短い言葉で書き抜き、自分の考えを伝えるために使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材に出てきた単語を辞書引きする機会を増やす。 ○短いスピーチや発表に対して意見をする機会を増やす。 ○文章全体を読み、要約したり、小見出しを付けたりする機会を増やす。 ○登場人物の気持ちが分かる文に線を引きながら読むことができるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○社会科の学習に対する関心意欲はとても高い。しかし、学習の中から新たな課題を見出したり、疑問を抱いたりすることが苦手な児童が多い。 ○資料を読み取る力が弱い。そのため、必要な情報を抜き出したりまとめたりすることも難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の「なぜ」を大切にしながら指導を行う。「なぜ」「どうして」と児童が思えたことや考えられたことに対して丁寧に価値付けをする。 ○資料は「見る」のではなく「読む」ということを意識させる。また、読み取ったことをわかりやすくまとめられるように指導を繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が疑問や新たな課題を見出せるような教材や資料を用意する。また、ICTを活用し、主体的に学習を進められるようにする。 ○段階的に資料の読み方を指導する。また、ノート等にまとめる活動では、友達と交流する時間を大切にしていく。交流することで、よりよい表現方法が身に付けられるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○問題で問われていることを正確に把握することが難しい。 ○計算が得意な児童が多い。単元の始め、過信して暗算で解いたり、友達の発表や説明を聞かなかったり、図を描かなかったりして、単元後半でつまづく児童が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までで学習したことと本時で学習することを明確にする。 ○言葉の式をいつも見えるように掲示、単元のポイントを児童に考えさせるなどして、一時間一時間がぶつ切りにならず、既習を生かして授業が進んでいくということを体感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時で学習することを黒板に書いて共有し、意識付けをする。 ○単元を通して役に立つキーワードや、必要になってくる考え方などを掲示したり、ノートを振り返らせたりする。 ○コースごとに、単元を通して身に付けたい力などを事前に示し、児童と共に単元計画を立てるなどして、見通しをもたせる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○観察や実験を通して、自分の予想を確かめる方法を考えることが苦手な児童が多い。 ○自らの考えを表現する力や、他者の意見に照らして自らの考えの確かさを判断する力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程のうち、実験などの方法を考える計画の時間を重視する。 ○児童同士が予想を伝え合ったり、結果から考えられることを意見交換したりする考えを伝え合う時間を設定する。伝え合いの時間には、教科書P7に出てくる「大切にしたい言葉」を参考にして伝え合うように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の予想はどのような方法で確かめられるのかを丁寧に検討するとともに、どのような結果が得られれば自分の予想が確かめられたといえるのか見通しをもたせるようにする。このとき、複数の要因が考えられる場合は、条件を制御しながら、それぞれの要因について調べる計画を立てる。 ○学び合いの場面では、児童に「大切にしたい言葉」「比べる言葉」「関係づける言葉」「見通しをもつ言葉」「ふり返る言葉」を掲示し、例を参考にして自分の考えを伝えられるようにする。

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かすことが好きな児童は多く、前向きに学習に取り組んでいる。 ○自分にあつためあてや課題を具体的に考えることが難しい。 ○運動技能については個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かすよさや楽しさをより感じられるように、ゲーム内容や体作り運動等を充実させる。 ○自分の技能を客観的に理解できるようにする。また、スモールステップで最終的なめあてに辿り着けぬことを理解できるようにする。 ○友達と比べるのではなく、学習をする前の自分と学習後の自分を比べるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動が苦手な児童でも楽しめるような運動を授業の中に意図的に取り入れる。 ○タブレットで動画を撮影し、自分の動きを確認させる。また、課題を意識して取り組めるように個別に指導をする。 ○振り返りシート等を活用し、見直しをもって自己の課題が解決できるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○概ねの児童が前向きな学習態度で取り組んでいる。 ○集中して演奏したり歌ったりすることができる児童が多い。リコーダーは1学期あまり扱えていないが、その他の打楽器等の演奏は楽曲にふさわしい音色を考えて演奏に生かせる児童が出てきた。 ○楽曲を聴いて感じ取ったことを文章にする力が高まっているが、感じたこと曲を形作る要素を結びつけて考える経験が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のきまりをしっかり身に着けさせ、定着させる。 ○状況に応じてリコーダー等の練習機会を設けるとともに、演奏の技能の向上を図り、楽曲の表現の方向性を旋律や歌詞から探り、曲想を生かした表現を工夫するようにさせる。また、自分たちの演奏や歌唱を客観的に評価できるようにする。 ○楽曲を聴いて音楽を形作っている要素を聞き取り、感じたことを文章で表すことができるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を明確にし、わかりやすく具体的に指導する。 ○基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうよう指導する。演奏や学習の振り返りをしっかりと行い、次に生かせるよう声掛けをする。 ○知覚したことと感受したことのつながりを考える経験を多くもたせる。また課題の評価の観点も明確にし、指導内容の定着を図るとともに達成感を感じ取れるようにする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に活動に取り組んでいる児童が多いが、粘り強く取り組むのが苦手な児童もいる。 ○豊かに発想できる児童も多いが、高学年になると、技能の部分に目がいきがちで、自己の作品や表現方法に対して自信をもてない児童も増えてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲が持続するような題材選定をする。また、授業の途中で友達の作品を見合う時間を設け、作品に生かすとともにお互いの意欲を高めさせる。 ○人とは違った良さを認め合う活動を多くもち、自信をもって、自由に発想できるよう適切な声かけをする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童ひとりひとりが意欲的に取り組めるよう題材、テーマを工夫する。振り返りカードを活用し制作の見直しをもたせたり、助言を行ったりする。 ○さまざまな表現方法を示し、作品の製作途中の鑑賞を取り入れながら、人と違った良さを認め合い、児童一人一人の学び合いを深める。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○初めての家庭科に、興味・関心をもって取り組んでいるが、自分の意見や考えに自信が持てないのか、発表をする児童が限られている。 ○被服実習では、男女ともに意欲的に取り組み、コツコツと楽しみながら作業できる児童が多い。生活経験の差が大きく、個別に支援が必要な児童も見られる。 ○調理実習ができない状況が続くため、年間指導計画の入れ替えなどの工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自主的・主体的な参加型の授業を工夫し、自分の意見や考えに自信をもてるようにする。 ○児童が製作途中で飽きてしまったり、嫌になって投げ出したりすることがないように、学習内容や指示の出し方を工夫する。また、個々の能力に応じた指導や声かけを行い、小学校の段階でできるだけ苦手意識をもたせないようにする。 ○調理に関する題材については、家庭と連携しながら進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍でのグループ活動の方法についてはタブレットやホワイトボードなどを用い、お互いの価値観や考えを共有したり深めたりして、自分の意見や考えに自信をもてるようにする。 ○基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるため、手元見本や、ICT機器を使って資料や作業内容を視覚化し、より明確な指示を出す。 ○自分の技能や工夫などがステップアップできるように振り返りカードを利用し、学習の見直しをもたせ、学習段階や個々のつまづきを把握できるようにする。 ○机間指導を行いそれぞれの児童の進度や技能に合った支援や声かけをする。 ○調理の技能を高めるために、学校での学びを長期休暇などに家庭で実践できるよう学習を計画する。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○歌や、チャンツなどを好んで参加している。 ○伝えようとする気持ちはあるが、既習事項であっても、正しく使えていないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌やチャンツの中には、大事な表現がたくさん詰まっているので、帯学習で取り入れ、定着を図る。 ○既習事項、新規の事項を出てくる都度、確認しながら、復習と定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい歌や、チャンツにも臆することなく、仲間と一緒に上達を目指す。 ○様々な文章や表現に触れ、繰り返したり、聞いたり、口にすることで自分のものにする。